

平成23年1月17日
南海電気鉄道株式会社

**大手私鉄で初めてプラズマクラスター技術を搭載
新型特急「サザン」12000系を導入します**
- 平成23年秋ごろ南海線で営業運転開始 -

南海電鉄（社長 亘 信二）では、お客さまにより快適な輸送サービスを提供するため、南海線に新型特急車両「12000系」を導入し、平成23年秋ごろに特急「サザン」として営業運転を開始します。

同車両は、快適性と優しさを兼ね備えています。「プラズマクラスター技術」（注）を大手私鉄で初めて搭載し、ウイルスの作用を抑え、カビ菌などを分解・除去。また、座席幅の拡幅やパソコンが置ける大きさのテーブルの採用、AC電源などを設置することで、車内の快適性向上を目指しています。さらに、床面の高さを低くすることで車両とホームの段差を少なくしたほか、車椅子対応のトイレを設置するなどバリアフリー化をさらに推進するとともに、VVVFインバータ制御の採用や、無水小便器の導入など環境負荷低減にも配慮しています。

大阪と和歌山を結ぶ有料特急車両として、同車両は、より快適で、より優しい輸送サービスをお客さまに提供します。

詳細は次ページのとおりです。



新型特急車両「12000系」（イメージ）

（注）プラズマクラスターおよびPlasmacluster は、シャープ株式会社の商標です。

- 1. 車両形式 12000系
- 2. 編成数 4両×2編成（8両）
- 3. 運行路線 南海線（南海本線、和歌山港線）
- 4. 列車種別 特急
※難波と、和歌山市または和歌山港を結ぶ特急「サザン」として運用
- 5. 営業運転開始 平成23年秋ごろ（予定）
- 6. 座席数 1編成あたり242席

7. デザイン “ミナミへ新しい波を起こす”をイメージ

車両先頭部から車体側面（上部）につながるブルーのラインと、車体側面（下部）に丸みを帯びたブルーとオレンジのラインを施し、「大阪湾岸・和歌山へ押し寄せる人と車両の『波』、全国から大阪ミナミへ押し寄せる人の『波』」をイメージしています。



車体側面（イメージ）

- 8. 主な特徴 ※お客さまの視点に立ち、現行の特急「サザン」（10000系）から、以下の点を改善しました。

（1）より快適な車内設備

- ①大手私鉄で初めて「プラズマクラスター技術」を搭載。ウイルスの作用を抑制するとともにカビ菌などを分解・除去し、快適な空間を提供します。
- ②座席幅を25mm拡幅した460mmとすることで、ゆったりと腰掛けていただけるワンランク上の居住性を確保しました。
- ③座席背面にAC電源とともに、幅430mm×奥行き245mmのテーブルを設置し、ビジネスユースなどに対応しました。
- ④ヘッドレストを、頭部を包み込むような形状にすることで、くつろぎやすさを提供します。



客室内（イメージ）

(2) バリアフリー化を推進

- ①現行の特急「サザン」と同様に車内に車椅子スペースを設置するほか、新たに車椅子対応トイレも設置。車椅子のお客さまにも安心してご利用いただけるようにしました。
- ②扉の開閉を知らせるドアチャイムと扉開閉予告ランプを設置。視覚や聴覚が不自由なお客さまにも扉の開閉を知らせて、安全を確保します。
- ③床面縁端の高さを55mm 低い1, 150mm とし、ホームと車両の段差が少ないスムーズな乗降を実現します。
- ④座席肩口に取っ手を設置し、車内移動時の安全性を確保します。

(3) 環境に配慮

- ①制御装置にVVVFインバータを採用して効率よく電力を使用するとともに、車体を軽量ステンレスとすることで、消費電力を削減。現行の特急「サザン」と比べて、年間約440tのCO₂削減効果を見込んでいます。
- ②従来の空気圧縮機より静かなスクロール式空気圧縮機を採用することで、騒音の低減を行います。
- ③平成19年に一部の駅に導入し、節水効果が得られた無水小便器を、同車両の男性用トイレに採用することで、節水に取り組みます。

以 上